

「美しい瞳の咲く道」 その1

【「(美しい瞳)のような美しい花の咲く道」というコンテキストの場合】 P202.

コンテキスト
(美しい瞳をもつ子たち)



画像 <http://www.fumira.jp/cut/gakkou/file176.htm>

コンテキストに支えられながら
「メッセージ」自身は
「美しい瞳」とは
文字通りの「人」の「瞳」
であることを要求

人だ!

美しい瞳

の 咲く 道

いや花だ!

「咲く」の選択制限の作用
= 「咲く」の主語は「花」であるべき

対立



「対立」は、「咲く」という語の統辞コード(「咲く」の選択制限)について、コードの修正をせまる。



「修正」

新・統辞コード (コンテキストに従って「咲く」の選択制限が修正される)



「その結果」= 修正された新・コード

主語「美しい瞳」に対して要求する「咲く」の選択制限は、
主語が「花」にかぎらず、「美しいもの」の意味にまでひろげられる。
しかし、やはり主語は「花」としての意味合いはこのこり、
人間の瞳にまねた「花」との解釈も撤回されない。
※ それほどに〈花のように美しい瞳〉との意味合いがうまれる

「美しい瞳の咲く道」 その2

【「(美しい瞳)のような美しい花の咲く道」というコンテキストの場合】 P. 203

コンテキスト

((美しい瞳)のような美しい花の咲く道)



画像 <http://flowerillustr.com/html/pop/pop0056.html>

コンテキストは、主語が「花」であることを要求

花だ!

美しい瞳

の 咲く 道

花だ!

しかし...

「咲く」の選択制限の作用

= 「咲く」の主語は「花」であるべき

メッセージ自身は、文字に従って、咲いているのは「人の美しい瞳だ」、「人だ」と主張する。

「コンテキスト + 既成コード」 vs. 「メッセージ」の対立

「コンテキスト + 統辞既成コード(「咲く」の選択制限)」は、「瞳」の語(記号表現)に、新たに「花」(記号内容)を与えるよう既成コード(「瞳」の意味を定めるコード)に修正を求める



「一方...」 対立

メッセージ自身は、あくまで、「美しい瞳」とは「人」でしかありえないと主張。しかし、メッセージはコンテキストに支えられていないので、この主張は不利。



不利なメッセージの支持者の登場 = 「解釈する主体」

「花」と「瞳」を結びつける十分な必然性があると判断されれば、メッセージによる「人の瞳だ!」への解釈の主張も主体である人間によって支持される。